

162

2010
April

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

「情報」をめぐる冒険
知的好奇心を広げよう

●同志社人訪問

小説家 真山 仁さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

※今号に登場する学生の学年は取材時によるものです。



特集

「情報」をめぐる冒険 知的好奇心を広げよう----- 2

ゼミ探訪 学びの時間 ----- 9

商学部 稲見亨ゼミ

同志社の研究は今 ----- 11

電磁エネルギー応用研究センター 石原 好之 理工学部教授

同志社創立135周年記念「大磯新島講座」----- 13

CAMPUS NEWS ----- 15

第31代同志社大学学長／スポーツ健康科学研究科&グローバル・スタディーズ研究科開設／同志社大学台湾フォーラムを開催／同志社キャンパスフェスタ／特定寄付奨学金募金協力者ご芳名／土曜日の事務室体制について／新任教員紹介／退職教員／本学教員執筆図書紹介

留学生紹介 ----- 19

クリスタル・エドワーズさん(AKP同志社留学生センター)

INTERVIEW ～同志社人訪問～ ----- 20

小説家 真山 仁さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～私と「仕事」～ ----- 23

・島田 久仁彦さん(1998年法学部政治学科卒業)
・米澤 飛鳥さん(2000年文学部文化学科文化史学専攻卒業)

ANNOUNCEMENT ----- 25

MY PURPOSE ----- 27

難関の弁理士試験に現役合格！～ゆくゆくは日本の知財戦略の向上に貢献したい～
金南 貴志さん<工学研究科機械工学専攻博士課程(前期課程)2年次生>



表紙の情景 [継志館プール]

昨年秋にグランドオープンした継志館(京都市上京区新町今出川下ル)。表紙に掲載した25メートルプールの他、ジャグジーや子ども用プールも備えている。プールの水は非常に透明度が高く、京都市内でも有数の美しさ。本学学生その他、一般の利用者にも開放している。ランニングマシン、エアロバイク、筋力トレーニングマシンなど、各種トレーニング機器が揃ったフィットネスジムを含めて、本学学生は1日800円で利用できる。お問い合わせは、(株)同志社エンタープライズ継志館事務所(TEL:075-251-3290)まで。

特集

「情報」をめぐる冒険 知的好奇心を広げよう



同志社大学の今出川・京田辺両キャンパスには、図書館をはじめとして、パソコンを備えた情報教室やPCコーナー、映像・音響の最新設備が整うマルチメディアラウンジ、さらには古代から近世まで数多くの歴史的文化遺産を展示した資料館など、時空を超えて膨大な「情報」に触れることのできる施設が揃っている。それらは知的好奇心の翼を広げ、知識と知恵を育む「知」のインキュベータ。大学での4年間の学びをより充実したものにするために、その活用方法をレポートします。

ラーネツド記念図書館

▼リポーター…高橋里佳さん

▲ガイド…笹井由香利さん
(文学部国文学科2年次生)
(情報サービス課)

〈1階〉

1 オープン・スタディズ

▼ラーネツド記念図書館にやってきました。入ってすぐのこの場所も学習スペースなのですか。

▲グループで会話しながら学習したいという要望に応え、昨年夏に改装して新しく

なりました。今、1階全体を、コミュニケーションとラボトリーを合わせた造語で「Co☆labo(コラボ)」と呼んでいます。最近では座学だけでなくプロジェクト型の授業が増えていきますから、グループでひとつのものを作り上げるスタイルの学習に対応した空間を提供しようという考え方で生まれました。いつでも自由に使えますし、ホワイトボードなども用意していますので、皆さんで積極的に使い方を工夫してください。

2 PCコーナー、PCラボ

▼その隣はPCコーナーですね。

▲はい。このコーナーでは、同志社大学が契約しているさまざまなデータベースを自由に検索することができます。レポート課題には不可欠な場所ですね。たくさんの方が行き来するオープンスペースで、データベース講習会なども開催しているんですよ。南側にあるPCラボでも、PCとプリンタが使えます。PCラボなどで開催されている講習会は、入門、初級、中級、

とレベル別に設定されていますし、外部から情報探索のプロをお招きすることもあります。



リポーター
高橋里佳さん

ガイド
笹井由香利さん

3 マルチメディアライブラリー

映像ソフトがたくさんありますね。



▼ ここにはCD、DVD、ビデオの資料が揃っています。主に語学、英語や第2外国語の勉強に活用されている部屋です。BBCやCNNなど海外の放送も視聴できますし、貸出はできないのですが、映画のDVDもあるので、勉強の合間の息抜きに使っても構いません。

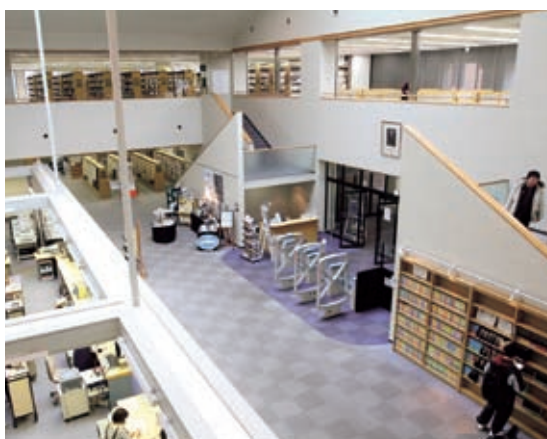
〈2階〉

4 Learned's Choice

▼ いよいよ2階に上がってきました。学生証を機械に通して入館し、入ってすぐの場

所に展示がありますね。このコーナーはどういう目的を持っているのですか。

▼ ここは「Learned's Choice」といって、図書館の奥深さを味わいながら、皆さんの世界が広がるよう、3カ月ごとにテーマを設定しそれに沿った本を置いています。手に取りやすい本を入り口として、書架にあれば見過ごしてしまいがちな本も工夫を凝らして紹介しています。今は教員や図書館職員がセレクトしているのですが、このコーナーに対する意見・感想を書いてもらうなど、学生にも参加してほしいという希望を持っています。1月～2月は「心を揺さぶる人びと」として、坂本龍馬を中心とした人びとの本などを紹介。4月からは、この図書館の名称にも冠されているD.W.ラーネッド(第2代学長)の愛誦句「Learn to Live and Live to Learn」をテーマに「学生時代に読みたい本」を企画・展示します。



5 展示コーナー

▼ 少し離れた場所にも展示コーナーがありますね。

▲ はい。こちらは、今出川キャンパスの「Neesima Room」で開催されていた同志社社史資料センターの企画展です。今出川での企画展が終了した後、その主要な展示物がこの場所に移ってきます。京田辺キャンパスでも学生の皆さんに企画展を見てもらえるよう工夫しているのです。

6 ESL BOOKS

▼ 入り口の左手には、楽しそうな英語の本がいっぱいですね。

▲ ESLとは、「English as a Second Language」の略で、英語が母国語でない人が英語を習得するために使う本を集めています。初級の絵本のようなものから中級、上級まで幅広く集めています。週に1冊読んでレポートを提出するとか、英語の授業でもよく使われていますよ。以前は書庫の洋書コーナーにあったのですが、この場所へ移動してから利用頻度が増えました。



7 第1開架閲覧室

▼ このあたりは私もよく利用するところですよ。

▲ この場所では、歴史や芸術、言語、文学などの本が閲覧できます。他には、3階の第2開架閲覧室に社会科学や産業、第3開架閲覧室に情報科学、自然科学、工学技術と分類されています。閲覧室のあちらこちらに蔵書検索システム「DOORS」用の端末がありますので、それで探せば見つけやすいですよ。文庫・新書コーナーは今出川の図書館にもありますが、京田辺の方が圧倒的に所蔵数は多いです。

8 参考図書コーナー

▼ ここだけ書架の高さが低いのはどうしてですか。

▼古い資料をまとめて収蔵しているのが、1・2階の書庫です。入口は2階にあります。入室の手続きは必要ありません。1階は図書の古いものや利用頻度のやや落ちたものを集め、2階には雑誌などを製本して長期保存しています。雑誌は貸出不可なので、必要なときはコピーして利用してください。



▼文学作品の先行研究などを探すのに、私もよく書庫を利用しています。

▼統計、年鑑、白書といった調べものをするための本を集めたコーナーなので、上に乗せて読めるようになっていて、参考図書は貸出不可ですから、少しでも読みやすいように工夫されているのです。

9 書庫(1・2階)

10 レファレンスカウンター

▼カウンターは私たちがよくお世話になる場所です。

▼例えば、D O O R Sで検索して目当ての本が見つからないと、資料探しをあきらめてしまう人がいます。でもそこから私たちの出番。スタッフからの問いかけを通して、自分が何を調べたいのかを明確にします。それによって新たなキーワードや情報媒体に出会い、発想も広がっていくのです。このように、私たちは答えを与えるのではなく、情報に通じる道しるべとなるのが役割。最終的には学生の皆さん自身に「情報探索の技」を身につけてもらいたいのです。何でも気軽に相談してください。レファレンスカウンターの横にはPCコーナーもあります。データベースの活用についても、相談に応じていますよ。世界の最新の研究論文は電子ジャーナルのかたちで発表されることも多いですから、特に自然科学分野の研究にはとても役立つと思います。

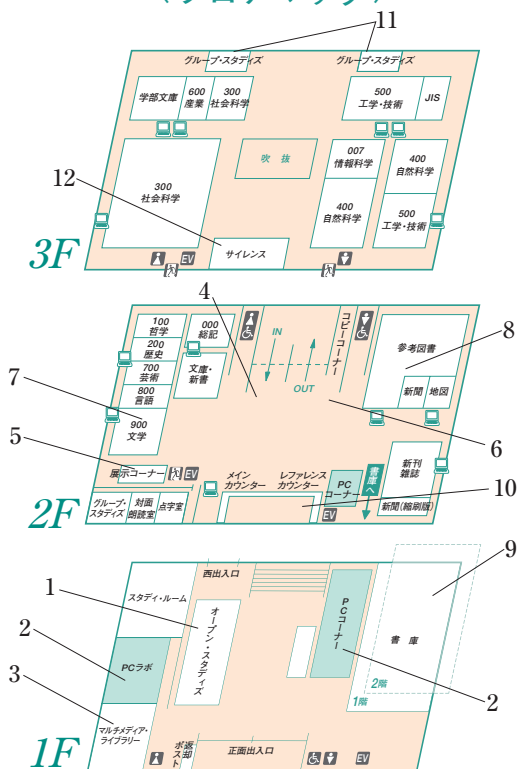
〈3階〉

11 グループ・スタディズ

▼3階にもグループで学習するための部屋があるので、おすすめです。

▼3階に2室、2階に1室あります。1階のオープン・スタディズは館外の扱いなので貸出禁止の本の持ち出しはできませんが、ここは館内なのでOKです。この部屋は予約制で、試験期間にはすぐ満室になりますから、申し込みはお早めにどうぞ。

〈フロアマップ〉



ラーネッド記念図書館 蔵書数(2009年4月1日現在)
図書235,125冊、定期刊行物1,700種類、新聞13タイトル

▼ユニークなネーミングですね。

12 サイレンス



▼その名の通り、ここではパソコンはもちろん電卓など少しでも音の出るものは持ち込み禁止です。館内で最も静かな閲覧室ですから集中したいときに最適です。大きな窓からは図書館から正門へ向かう道が一望できます。この美しい眺めを求めて場所取りに走る人もいるほどです(笑)。ラーネッド記念図書館は、1階が会話のできる空間、2階は静かにしたいといけないけれど人の出入りがあるフロア、そして3階に上がると静寂に包まれた場所、という流れになっているのです。

▼フロアごとによく考えられた構造になっているのです。今回は勉強になりました。ありがとうございます。

今出川図書館

▼ガイド…池口 真梨子さん

(情報サービス課)

▼今出川図書館にやってきました。烏丸通側の西門から入って右手の建物ですね。私はこの2年間、京田辺キャンパスで過ごしてきたので、今出川図書館を利用したことはほとんどありませんが、基本的な機能は京田辺ラーネッド記念図書館と同じですか。

▼そうですね。レファレンスカウンターでは各種の利用相談に応じていますし、データベースや電子ジャーナルなども共通です。PCコーナーやマルチメディア・ライブ러리などももちろん備えていますよ。ただ、今出川図書館はよりアカデミックな雰囲気、学生向けの企画展示などはラーネッド記念図書館の方が多いです。

▼その代わり今出川図書館にしかないものもあるのですか。

▼はい。EU情報センターと貴重室は、今出川にしかありません。それでは今回はそのあたりを中心に紹介していきますよ。

〈地下1階〉

13 EU情報センター

▼EU情報センターの存在は初めて知りました。

▼欧州委員会から欧州統合関係文献専門の資料センターとして指定されています。日本では国立国会図書館の他、19大学に

あります。同志社大学は1976年、国内3番目に設置された伝統あるセンターです。一般の人でも利用できるようにゲートの外側に設置しています。研究者や企業の方たちも利用されていますよ。視聴覚資料を含め、数多くの資料や出版物が収集されていて、ヨーロッパサーバといってEU公式サーバからインターネットで豊富な情報を閲覧することもできます。EUの条約、法案、判例を調べたり、経済政策に関する報告書を閲覧したり、さまざまな分野の統計資料なども所蔵しています。

▼専門的な資料が揃っているんですね。

▼EUについて詳しく知ってもらいためのセンターですから、勉強はもちろんのこと、ヨーロッパ旅行に行くときの下調べなどにも便利だと思いますよ。気軽に立ち寄ってみてください。



14 展示コーナー

▼こんなところに展示スペースがあるのですね。

▼3〜4カ月に1回、企画展を開催しています。昨年12月〜今年2月までは「永井荷風と藤蔭静江の世界」展、3月1日〜5月31日は「老木に花咲いて〜中野譜庫と同志社のマンドリン」展を開催します。中野譜庫は、名古屋の音楽家である中野二郎氏が、65年にわたって収集してきたマンドリンとギター関係の楽譜コレクションです。同志社大学マンドリンクラブ設立100周年を祝しての記念展示でもあります。今後も展示を通して図書館所蔵の資料を紹介し、多くの人に楽しんでいただきたいと思っています。



ガイド
池口 真梨子さん

〈1階〉

15 開架閲覧室

▼レファレンスカウンターとPCコーナーの前を通って、開架閲覧室にやってきました。

▼1階は主に、参考図書室と開架閲覧室、雑誌室となっています。開架閲覧室の中央

にある学部文庫は、文・社・法・経・商・政策の各学部の父母会からの寄付で購入した本を並べています。図書館は同じ本を2冊は置かないのが基本なのですが、ここには授業のテキストなど利用頻度の高いものが複数冊置いてある場合があります。



16 雑誌室

▼同じ雑誌室でもラーネッド記念図書館とは少し傾向が違うような気がするのですが。

▼新刊だけでなく、製本されたバックナンバーで利用頻度の高い雑誌は、書庫ではなく1階に置いてあります。ラーネッド記念図書館は、1、2年生のために基礎的な内容のものや、自然科学系の雑誌が多いです。一方、今出川は上級生向けでより専門性が高く、文系中心で、アーカイブ重視の傾向が強いです。紀要なども目に付きやすい場所に置いてあります。

〈2階〉

17 拡大図書室・点字室・対面朗読室

▼今出川図書館は階段を上がったり下がったり、なんだか迷路みたいですね。

▼そうですね。初めての人は少し迷うかもしれません(笑)。



▼ ラーネット記念図書館は書庫に自由に入ることができますが、今出川図書館は申し込みが必要なんです。

18 書庫（3階、地下1・2階）

▼ 残念ながらあまり多くはありません。存在があまり知られていないのかもしれないですね。障がい学生支援に力を入れている同志社大学としては、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。

▼ 利用される方は多いのですか。

▼ 残念ながらあまり多くはありません。存在があまり知られていないのかもしれないですね。障がい学生支援に力を入れている同志社大学としては、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。



▼ こんなところに特別室があるんですね。

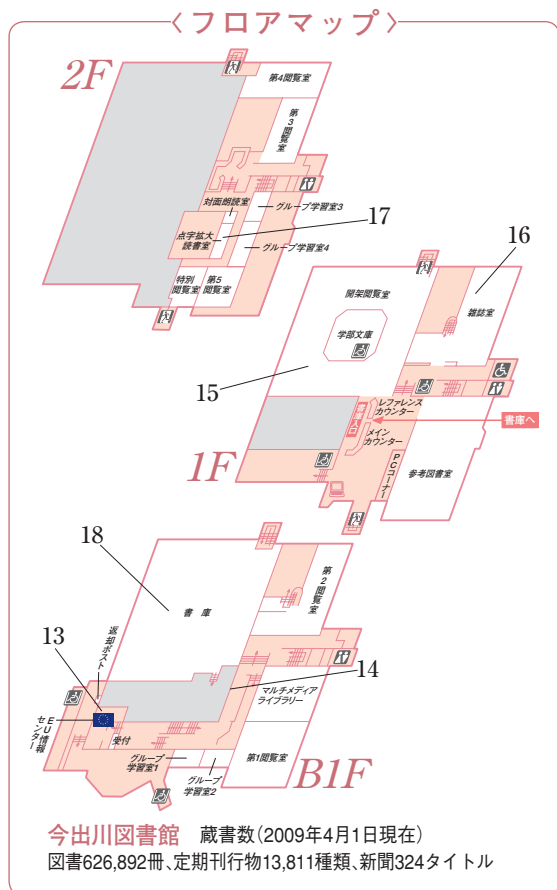
▼ はい。拡大図書室と点字室は中で一部屋につながっていて、点字辞書や点字プリンターなどを備えています。点字の新聞も取っています。本の文字を大きくして見る拡大読書機は、高齢の方にも便利だと思います。

▼ 電動式の書庫なんです。

▼ 膨大な資料を所蔵していますし、本は毎年増えていますから、自分でスイッチ操作



▼ はい。ラーネット記念図書館はすべて開架方式ですが、こちらは閉架のものがありません。DORSで検索して書庫にあれば、メインカウンターで手続きをして閲覧することが出来ます。入庫の際には荷物をロッカーに預け、バッジを付けてもらいます。または、カウンターのスタッフに持ってきてもらうことも可能です。



作をして動かします。センサーが付いている、誤って挟まれたりすることはありませんから、その点は安心して下さい。

19 貴重室

▼ さきほども触れましたが、貴重室は今出川図書館だけにあるもので、その名の通り、古く貴重なものを保管しています。本学に縁のある方から寄贈していただいた資料を整理し、次世代に伝えていけるよう大切に保管しています。明治期のちりめん絵本などの貴重書の他、キリシタンの高札、元禄14年製の天球儀といった本以外のものもあるんですよ。

▼ ちりめん絵本とはどんなもののですか。

▼ 和紙をちりめん仕立てに加工し、和綴り製本したものです。色もきれいで、触ってみると紙ではなく布のようですよ。現

在は復刻するのが難しいそうなので、印刷や綴じ方などもじっくり見て下さい。

▼ 普段から閲覧は可能なのでしょうか。

▼ とても貴重な資料を保存していますから、この部屋に立ち入りはできません。ただ、カウンターで申し込んでもらえば、貴重書閲覧室で見ることが出来ます。貴重な資料を大切に扱うことも勉強のひとつです。ぜひ一度は体験してみてください。

(2010年2月探訪)



情報処理施設

情報教室・PCコーナー

▼ナビゲーター…

学生補助員・川江友二さん
(神学部4年次生)



情報教室・PCコーナーがあるのは、京田辺校地では情報メディア館、頌真館、恵道館、ラーネット記念図書館、磐上館、同志社ローム記念館、今出川校地では寧静館、弘風館、臨光館、図書館、寒梅館です。開室時間であれば、パソコンやプリンタを自習利用できるところになっています。

基本的に在學生であれば利用できますが、入学当初に実施されるネットワーク利用資格認定試験に合格していないとメールやインターネットが使えません。もし、ワード、エクセル、パワーポイントといったよく使うソフトの基本操作や機能についてわからないことがあれば何でも聞いてください。ただ、丁寧に

説明はしますが、僕たちが代わって操作することはできません。利用する人が次は自分で操作できるようになってもいいからです。

基本的な利用方法は、パソコン利用者講習会で学ぶことも可能です。それから僕がお勧めするのは「情報教育環境ガイドブックDOO」をしっかり読み込んでおくこと。パソコンを使っているあらゆる便利に書いてあります。例えば、

「リモートデスクトップWeb接続」は、VPN接続をしていれば、情報教室やPCコーナーが閉

まっている夜間、インターネットで自宅のパソコンと学内のパソコンをつなぎ、大学内情報環境に設置したパソコンを利用できるシステムです。ただ、利用時間は1回2時間と限定されています。また、「オンラインストレージサービス」は、1人500MBまでネットワーク上に自分のデータを保管できます。これを利用すれば、USBメモリーなどの記憶媒体を持ち歩く必要はありません。

学内でパソコンを使うときに気をつけてほしいのは、デスクトップやハードディスクに保存したデータは、一度シャットダウンすると消えてしまうことです。必ず自分の記憶媒体に保存するようにしてください。また、使用中に席を外したまま長時間戻ってこない人がいます。マナーを守り、みんなが気持ち良く利用できるようにしたいですね。

マルチメディアラウンジは、京田辺校地の同志社ローム記念館グランドフロア、今出川校地の寧静館1階にあります。写真やビデオ編集はもちろん、さまざまなマルチメディアコンテンツを作ることができます。例えば、映像を撮る・創る、写真を編集する、写真でスライドショーを作る、オリジナルDVDを作るなど、作業を通していろいろな自己表現ができます。

学生補助員 境友梨子さん
(政策学部2年次生)

▼ナビゲーター…



スタジオでは、2台のカメラを使ったスリッチング収録が可能です。ノンリニア編集、静止画像編集、3Dグラフィックス作成、各種方式のデジタルビデオ作成などの機能を持ったWindows、Macが配備されているので、スタジオで収録した映

マルチメディアラウンジは、京田辺校地の同志社ローム記念館グランドフロア、今出川校地の寧静館1階にあります。写真やビデオ編集はもちろん、さまざまなマルチメディアコンテンツを作ることができます。例えば、映像を撮る・創る、写真を編集する、写真でスライドショーを作る、オリジナルDVDを作るなど、作業を通していろいろな自己表現ができます。





歴史資料館

本学のキャンパスは豊かな歴史的背景を持つ地にある。今出川校地とその周辺は、鎌倉時代の中頃から貴族の邸宅が建ち始め、室町幕府の「花の御所」が置か

れた場所。京田辺校地は京都市と奈良市のほぼ中間にあたり、弥生～室町時代の古墳や遺跡が保存されている。歴史資料館では、文学部考古学研究室の全国各地での研究調査や、校地学術調査委員会による各キャンパスの発掘調査などで収集された85万点にのぼる遺物や資料を中心に、考古学、歴史学、民族学などの貴重な歴史資料を収蔵している。特に井辺八幡山古墳（和歌山）出土の形象埴輪群や、南蛮寺跡（京都）出土の硯（すずり）などがよく知られている。

【開館時間（本館・京田辺校地）】
月～金曜日

10時～11時30分・12時30分～16時

※休假期間を除く

※今出川校地でも年に1回企画展を開催



像をはじめ、いろいろな画像を編集することが出来ます。例えば、スタジオで発表している様子を撮影したい、フィールドワークでビデオ撮影したものを編集したい、授業の課題で動画作品を完成させたい、といったさまざまな要望に応えています。他には、授業のプレゼン用のDVDやパンフレットなども自分で作ることが出来ます。

私も最初はそうでしたが、マルチメディア機器の操作方法がわからなくて

も、不安に思う必要はありません。そもそもここにある設備は、多くの学生にとって同志社大学に入ってから初めて触れるものがほとんどだと思います。使い方を知らない人を補助するのが私たちの仕事ですから、わからないことがあれば何でも聞いてください。私たち学生補助員も日々勉強中ですが、常駐する専門のスタッフがしっかりサポートしてくれます。また、講習会が定期的に開催されていて、マルチメディアコースの講習会では、画像や動画編集

の他、WEBページの作成方法などを学ぶことが出来ます。これほど充実したマルチメディア機器が揃っているのは、大学ならではの環境だと言えます。自分がやりたいと思えば可能性はどんどん広がると思うので、積極的に活用してください。ただ注意してほしいのは、1回の利用は3時間までで、用途は教育・研究活動のみに限定されていること。サークルなどの課外活動には使えません。

Neesima Room

1995年ハリス理化学館（重要文化財）2階に設けられた展示施設。同志社には創立者 新島襄の資料をはじめ、創立以来135年の歴史のあらゆる側面を物語る資料が保存されている。これらの資料の教育的利用、ならびに研究成果の公表の場として、Neesima Roomでは春学期と秋学期にあわせて年2回の企画展を実施。大小の2部屋から構成されるNeesima Roomでは、新島襄と建学の精神をよりよく知るための常設展示室、変化に富んだ同志社の歴史をさまざまな角度から見ることが出来る企画展示室がある。ここでは、創立者の想いや建学の精神、先人たちの想いに触れていただきたい。



【2010年度春学期の企画展】

「目的の大なる人物をー創設期の学生たち」
4月1日～7月31日 10時～17時

（土日曜日は16時まで）

閉室日／祝日、4月29日～5月5日、

5月26日～31日

商学部
演習Ⅱ
稲見 亨ゼミ

「明るさをモットーに」

国際的視野を持つて 会計を研究する

扶桑館505教室。この日、稲見ゼミ3年次生の2009年度最終授業が行われた。司会の学生を中心に、2人のゼミ生がそれぞれの研究報告を発表。この日の発表者は、損害保険とテレビ業界について、その役割や抱える問題点、今後の課題・展望などを会計数値を交えて説明した。その後、他の学生

たちとともに質疑応答や意見交換がなされた。稲見教授からも指摘が入り、データやグラフの数字が示す意味について発表者に分析を促す。

それぞれが個別のテーマに沿って研究を進めている。

ゼミ全体の研究テーマは「会計の国際的統合に関する研究」。

「必ずしも国際会計の研究がすべてではないとはいえず、国際会計基準に関する知識は身に付ける必要があります。最初はテキストを指定し、3人ずつくらいのグループに分かれて、章ごとに研究報告を行います。1冊のテキストを春学期中に終えるのが最初の目標です。大切なのは、視野を広げて国際的な観点からさまざまな物事を捉えること。企業、会計の諸問題、国際比較、それと同時に日本の足元を見直す。広い視野を持つて会計の勉強をする」とが、ゼミの一番の目的です」

2年次の12月、選考を経てゼミ生となったのは19人。3年次の春学期からスタートし、現在は卒業論文を視野に入れながら、

報の発信源である企業の活動のみならず、情報の受信者である利害関係者も国際化

している現代、国によって異なる会計ルールの存在は、会計関係者間のコミュニケーションを阻害する要因となる。そこで求められるのが「世界共通の会計ルール（国際会計基準）」の策定だ。



「このゼミはみんな仲良く、明るくということが大前提です。この学年が3期生にあたりますが、この期は特に個性的な人が揃いながら、それでいてまとまりがありますね。すぐに仲間と打ち解けて自分を出せるような学生が多いです」



稲見 亨
【商学部教授】



「直接会計に関係するわけではありませんが、コストや資産の価値、流通への意識を持つために、事前に企業分析をしてから見学に行くという工夫はしています。ビール工場の見学時は、おいしいビールを飲んで、その後はボウリング。こういうお楽しみの部分もあって学生には評判がいいんですよ」と、稲見教授は笑う。

商学部ゼミ対抗で行われるソフトボール大会、それに加えて琵琶湖リトリートセンターでの合宿、ボウリング大会、秋の学園祭に出店する模擬店も、ゼミの課外活動で欠かせないイベントだ。



ゼミ生たちに稲見ゼミの魅力を聞いてみた。

「一番はやはり先生の人柄だと思います。ゼミを選ぶときに惹かれたのが、紹介文に『生つきあえる仲間を作るゼミ』と書いてあったこと。私自身、2年間だけでなく生涯つきあえる友人を作りたいかったの」と岩崎風花さん。

テレビ業界について研究報告し、マスコミ志望だという陣内太郎さんは、「1、2年次のときは体育会の活動が中心でしたが、ゼミでいろいろな関心を持つ人たちと触れ合えるのがすごく新鮮です。ゼミの時間以上に一緒にいる時間が長くなっているような気がします」と話す。

「このゼミの一番良いところは、全員がそれぞれ異なる研究をしている点。しかもそれが認められる。人によっては野球の研究をしていたりするのですが、それが会計にまったく関係ないわけでもない。大切なのは、その人がどのように研究し調査をしたのかということを見て、それが会計の研究に生かせるのではないかと気づくことなんだと思います」と語る佐藤龍也さんは、この日発表の司会を務めた。司会はその都度ゼミ生自身が選ぶことになっている。

3年次の学生たちにとっては、卒業後の進路選択が目の大きなテーマだ。19人のうち何人かは、「会計のプロ」を目指す。

「私は会計学研究会で、日本の会計

を中心に勉強してきました。でも、ゼミに入って国際会計の勉強を始めると、会計基準に対する日本と世界のアプローチの違い、またそこに生じる問題点など、知らなかったことがたくさんありました。それらの問題点をどのように解消していくかが今後の研究テーマです」と言う松山裕加里さんは、公認会計士と同時に大学教員の道をめざしている。

大学院へ進学、その後は会計士、税理士



の資格取得も視野に入れているのは三木啓愛さん。「日本にも国際会計基準が導入されるという大きな分岐点がやってきます。株式を上場している大企業が今後、どのように今の日本基準と国際会計基準を企業内で整合していくのか、また商社や銀行、保険会社など業種によって対応するときに発生する問題が違うので、これからは業界分野別にもテーマを絞って研究していきたい」と意欲的だ。

「ゼミを選ぶときに『国際』とあるかどうかを選ばの基準だった」と言う河田子鵬さんは、中国で生まれて7歳まで生活し、中国語と日本語の両方を話すことができる。「将来は世界を舞台に人を大きく巻き込める仕事がしたい。今一番志望しているのは商社や、海外へ進出しているメーカー。まだマーケットが発展していない国に、日本の技術や商品、サービスを持っていくような仕事がしたいです」と語る。

春からはいよいよ卒業論文の執筆にとりかかる。それぞれが温めてきたテーマを練り上げ、4年間の学修の集大成となる。稲見ゼミの濃密な時間はまだまだ続く。



今、私たちは電気エネルギーの恩恵を享受することによって、文化的な生活を営むことができる。そのベースとなる電気を発電する発電機や、電気をエネルギー源として回るモータには磁性材料が用いられている。2007年11月、磁性材料や電磁機器の特性に関する研究などを行う、「電磁エネルギー応用研究センター」が設置された。電磁エネルギーの有効利用をめざす当センターの研究内容や役割について、理工学部教授の石原好之センター長に伺った。



石原 好之

【理工学部教授】

電磁エネルギー応用研究センター 電磁エネルギーの有効利用は 地球環境の改善にもつながる

現代の生活において、電力は欠かすことのできないものです。その発生のほぼすべて、また使用電力の半分は、電磁エネルギーを利用して発電され、消費されています。この電磁エネルギーを有効に利用するには、発電機、変圧器、電動機などの電磁機器の特性を向上させる必要があります。

当センターでは、電磁エネルギーを有効に利用するため、電磁機器に使用される磁性材料の特性測定法、電磁機器の特性向上のための数値計算法の確立、電磁機器の数値計算に使用するための磁性材料の特性近似法、また、磁性材料の特性と電磁機器の特性、電子機器に使用される磁性材料の特性と回路動作、さらには、太陽エネルギーを効率よく利用するためのシステムと回路方式などに関する研究を行っています。それらの研究を進めることによって、電磁機器の高効率化、発電システムの多様化につながり、その結果として省エネルギー化、二酸化炭素など地球温暖化ガスの削減をもたらし、ひいては地球環境の改善に貢献することをめざしています。

現在、電気エネルギーの99%以上は発電機によって発電されており、そこで作られた電気エネルギーの半分以上を消費しているのはモータです。その効率を1%上げることで、実に原子力発電所1基分のエネルギー節約に相当するといふほどの大きな影響を持っています。したがって、モータに使用されている磁性材料の研究が、当センターの大きな研究対象となっています。

例えば、今は自動車の大半がガソリンなど化石燃料をエネルギー源として動いていますが、その自動車1台の中には、広い意味での電動機(アクチュエータ)が大小合わせて約100個使用されています。ガソリン車に代わる次世代の自動車として普及が進んでいるハイブリッド車は、エンジンとモーターがそれぞれの特性を最も効率良く発揮し、相互に補完し合う形で走るものですが、今後はさらに、エンジンを搭載せず電気エネルギーのみを動力源とする電気自動車への移行が加速していくものと予想されます。そうなるとうまますモーターの果たす役割が大きくなってきます。そこでモーターの製造に際して、こういった磁性材料を使用すればその働きをより有効なものにすることができると、材料の特性をきちんと評価するためにはどういう測定方法が適切なのか、磁性材料の正しい測定法を確立することが求められるのです。

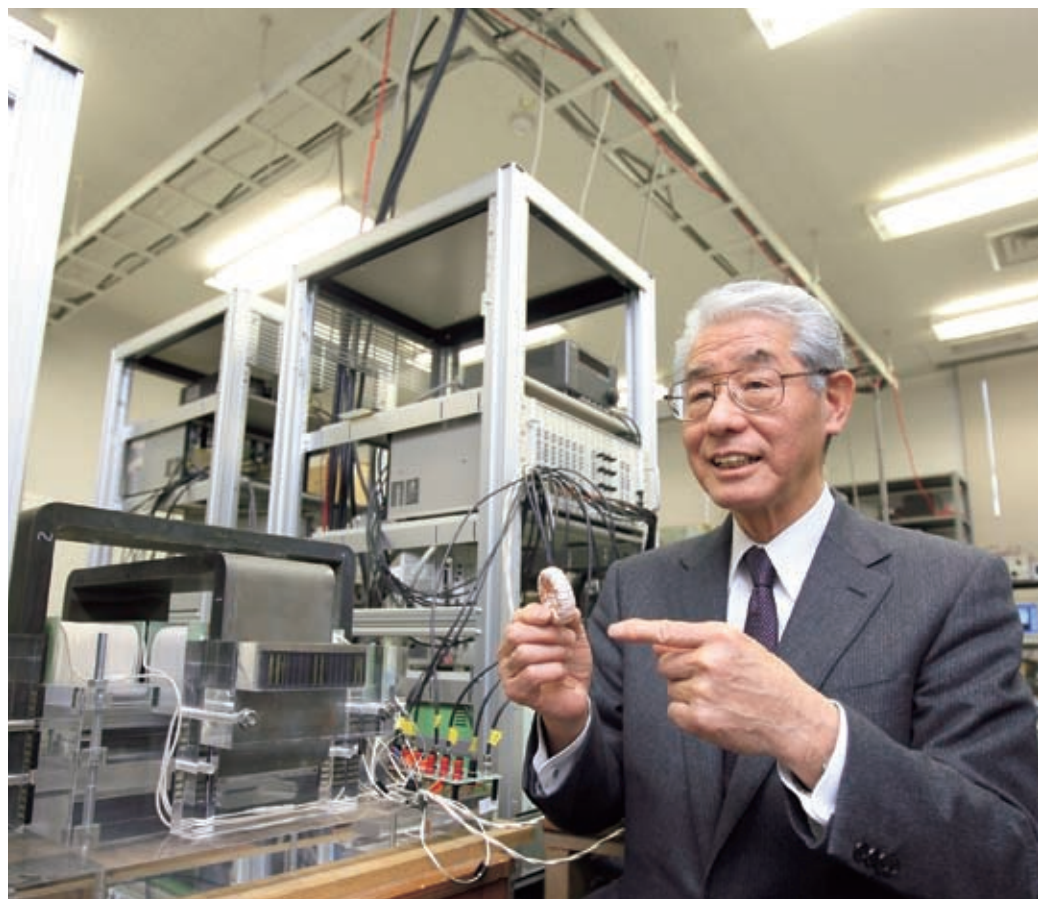
磁性材料の標準測定法は、日本工業規格(JIS)や国際電気標準会議(IEC)規格に、一般的な事項については規定されていますが、新しい材料や使用法が広がるにつれて、それに対応する測定法を確立していく必要があります。規格に規定されていない領域や条件での新しい標準的な測定法を提案することも、当センターが担う役割のひとつです。

磁性材料についての技術は、日本がもとも得意とする分野です。特にモーターや発電機の鉄心に用いる電磁鋼板はトップクラスの技術を持ち、世界に技術輸出をして

います。しかし最近はその分野の研究が大学から企業に移り、電磁材料の測定に関する研究を行っているのは、当センターの他、大分大学が進められている地域結集型のプロジェクト、および岐阜大学、岡山大学での研究が挙げられる程度です。企業側も不況の中、なかなか設備投資などができませんから、相対的に当センターの重要度は高くなっていると言えます。

さらに考えなければならぬのは、電磁機器を使用するときいかにエネルギーをセーブするか、より効率良く動かせるかという点です。より少ない電力で同じ出力を確保できるようにすれば、火力発電所や電子力発電などの巨大な発電機の効率を上げるよりも省エネルギーには近道です。機器だけでなく運転方法やその周波数なども、今後もっと詰めていける点だと考えています。どういう特性を持った材料であればモーターの鉄心の損失を抑えることができるのかを明確にし、それを材料を製造するメーカーに提言。そこで作られたものをまた評価してより良いものにしていけば、モーターの効率がさらに上がっていくはずだ。

その他、当センターで現在取り組んでいることのひとつに非接触充電があります。電話機がコードレスで電波を飛ばすように、電気も飛ばすことができれば、コードレスで充電することも可能になるのではないかと。宇宙空間に太陽電池を設置して、そこから電力を地上に送ってくるようにしようという壮大な構想もありますので、それ



に比べれば、家の中の狭い範囲は実現する可能性が高い。まだいろいろと乗り越えなくてはいけない壁がありますが、将来的にはテレビもコードレスであちこちの部屋に持ち運べるようになるかもしれません。

当研究センターでは、理工学部電気工学科の教員が中心となり、電子回路の動作解析や、電磁機器のシミュレーション技術手

法の確立などにも取り組んでいます。電気系以外にも機能分子・生命化学科の教員が、より先進的な磁性材料の開発に取り組んでいます。それぞれの研究がリンクし、発表会などを通して他の研究機関や企業などとも連携することで、電磁エネルギー有効利用のための複合的な研究拠点となっています。



同志社創立135周年記念 「大磯新島講座」

同志社創立135周年記念「大磯新島講座」が、同志社創立者 新島襄の命日の1月23日(土)、永眠の地である神奈川県大磯町で開催された。当日は、野本真也学校法人同志社理事長ら法人関係者に、首都圏の校友・同窓、三好正則大磯町長をはじめとする地元の人々約110人が集い、新島永眠時刻の14時20分、「同志社創立者新島襄終焉之地」碑前祭が行われた。続いて15時から、大磯町立福祉センターさざれ石で「大磯新島講座」が行われ、野本理事長が「新島襄の人と思想」と題して講演。創立者の志を胸に刻んだ。

「新島襄の人と思想」(要旨)

野本真也 学校法人同志社理事長

新島襄の人と思想を表すキーワードに

「民主主義」「そして「自治自立」「志」「良心」「自由」「愛」「平和」「真理」といった言葉が挙げられます。このような言葉で表される新島の人格思想は一体どのように形成されたのでしょうか。

新島のキリスト教との最初の出会いは聖書でした。次にアメリカの会衆派、会衆主義と呼ばれているピューリタンのキリスト者たちとの出会い、そして教会やキリスト教に基づく学校での学びあるいは諸団体との交流です。

幕末の動乱が始まる前夜、天保14年(1843年)に、江戸の神田一ツ橋安中藩邸で生まれた新島は、オランダ軍艦を見て憂国の情や志を強め、17歳頃から幕府の軍艦操練所で航海術を学びます。1862年に備中松山藩の快風丸に乗船したことが自由を得るための脱国の情を深めていく契機になります。そして1864年、快風丸で箱館に着いた新島は、6月14日の夜半、ベルリン号に乗り込むことに成功。ここからキリスト者たちとの出会いが始まります。新島はベルリン号の中で英語を学び、船員から聖書を借りて読みました。ベルリン号のセイヴォー船長は、新島を上海まで運び、さらにワイルド・ローヴァー号のテイラー船長に引き継いでくれます。テイラーは、



当時「七五三太」という名前だった新島を「ジョー」と呼びます。これは聖書の創世記に出てくるヨセフの略称です。テイラーは旧約聖書のヨセフのように、神の導きが新島の上にあることを願っていたのでしょう。ワイルド・ローヴァー号は1865年7月20日、ボストンに到着。上陸するために新島が書いた「脱国の理由書」を読み感動して新島を引き受けてくれたのがハーディー氏でした。彼の導きによって新島はフィリップスアカデミーに入学しました。ハーディー氏は、同志社設立後もアメリカン・ボードを通じて新島をサポートしてくれた人です。夫人も心の温かい人で、夫妻はボストンのオールドハウスチャーチという会衆主義の教会の会員でした。この会衆主義の教会の特徴は、一つひとつの教会が信仰の自由を大切にする、自主自立の精神で教会運営をするということです。アメリカン・ボードという宣教師の団体も、この会衆主義の教会を中心に組織されたものでした。

新島は1867年9月から、会衆主義の教会が設立したアーモスト大学に学び、3年後に卒業して日本で初めての理学士となります。次に入学したアンドーヴァー神学校で、新島は良心を研ぎすまし、自由と愛を大切に生きるという生き方を徹底的に学びました。1874年、アンドーヴァー神学校を卒業し、牧師となった新島は、いよいよ日本に帰国することになります。そしてその年の10月に開かれたアメリカン・ボードの年次大会で、新島は日本にキリスト教主義の学校を設立したいと熱く訴えたのです。

新島の思いに共感した人々から5000ドルの寄付が集まりましたが、新島が演説を終えたとき、ひとりの年老いた農夫が懷から2ドルを出し、涙を流しながらこう言いました。「この2ドルはこれから自分が汽車に乗って帰るためのものだ。しかし、私は演説を聞いてあなたが愛国心に燃えていることに感動した。私は老いたといっても

まだ両足は丈夫で、家まで歩いて帰ることができる。これはほんのわずかだが、どうかあなたが将来大学を建設する費用の足しにしてくれればこれ以上の喜びはない」。新島はこの2ドルこそ同志社の中核であると書き残しています。

アメリカン・ボードは同志社のためにずいぶん寄付してくれました。最初の人件費や建築・運営費などはすべてアメリカン・ボードからの寄付でした。以後もアメリカン・ボードの寄付は続き、1887年には同志社病院、京都看病婦学校をその寄付によって開設、1890年にはハリス氏の寄付によってハリス理化学校を開校することができました。また、新島の永眠を記念するホールを建てる際には、アメリカン・ボードの斡旋によってクラーク夫妻の寄付を得ることができました。これが現在、同志社を象徴する建物となっている「クラーク記念館」です。

このようにして新島は、アメリカの会衆主義教会の人々や団体の寄付を通して、1875年11月29日に同志社英学校を開校します。新島は同志社大学設立にあたって、医学部を設置したいと考えていました。その医学部は、貧しい人を助けて心の病気に至るまで治療することをめざし、人々に最上の喜びと幸せをもたらすことが真の医学であるとし、当時の科学一辺倒の医学に対して、心の病を癒す医学の大切さを説いて、そのための教育を志していました。私たちは新島のそうした医療への思いを

大切にしていこうと、同志社女子大学には2005年に薬学部を設置、同志社大学にも2008年に生命医科学部を開設し、志を受け継いでいます。

新島は聖書と出会い、会衆主義のキリスト者と出会い、またアメリカン・ボードなどのキリスト教会や伝道団体の協力を得て、同志社をキリスト教主義の学校として設立し運営していくのですが、同志社の建学の精神としたキリスト教主義の中心について、新島は形式ではなく誰にでもわかる言葉で表現しました。それが「良心」「愛」「自由」です。良心とは神の心を照らす心の鏡のようなものです。それを心の奥深くに閉じ込めて眠らせているか、それとも目覚めさせて実際に働かせているか、それによって人間の生き方は変わってきます。良心を目覚めさせる教育をしたい、それが新島の志でした。

新島は晩年、自分の生涯の目的は「自由教育自治教会両者併行 国家万歳」と、弟子に書き送っています。自由教育とは学生の自主性を重んじるもので、アモスト大学で

彼が理解し学んだ教育方針でした。もちろん新島の自由の概念は、キリスト教の教えに基づく「真誠の自由」であって、何をしてもよいというわがままは「虚偽の自由」です。

新島の生涯を振り返ると、苦悩の人であり、信仰の人であり、そして何より志の人でした。志を抱いて渡航し、志をもって同志社を設立しました。大学設立の志を生きて実現することはできませんでしたが、「誰か余の志を継ぎ、この事業を成就せしむるあるべし」といった誰が私の志を継いで事業を実現してくれるのだろうか」と、教え子たちに問いかけながら亡くなりました。

今、日本でも世界でも教育観、宗教観が極度に多様化しています。混乱と混沌の度合いが深まっています。その結果、人間としての真のあるべき姿が見失われようとしています。それだけに、新島裏が出会ったキリスト教の最も良質の部分を再発見し、新島の志を継承し、真誠の自由と愛を実現するために良心を手腕に運用する人間を育成することが、同志社にとってますます重要な使命となっていくと改めて痛感しています。かつて新島が勝海舟から同志社の完成に何年かかるのかと尋ねられたとき、200年と答えたといわれています。同志社は今年創立135周年、まだ新島の志の本当の中心を実現する道の半ばに達しているかどうかというところです。しかし私たちは今後も新島の志を継承し、共有しながら、与えられた使命を実現するために、精一杯努力をしていきたいと思っています。



同志社創立135周年記念行事

●「フォトコンテスト」

「新島裏の志と同志社の伝統」をテーマに、同志社各学校の在校生、卒業生、教職員その他、広く一般を対象に募集。

【期間】2010年4月～9月

●「新島裏と同志社」展

【期間】5月26日(水)～31日(月)

10時～20時(最終日は17時まで)

【会場】天丸京都店 6階多目的ホール

●「懸賞論文」

「新島裏と同志社」をテーマに、一般、大学生、高校生、中学生を対象に募集。

【期間】2010年6月～

●「函館新島講座」寸劇

【日時】6月13日(日) 15時

「函館海外渡航の碑」碑前祭

【日時】6月14日(月) 10時

●「能庭上梅」と講演

【日時】11月13日(土) 16時

【場所】名古屋能楽堂

【第1部】講演 講師 本井康博 神学部教授

【第2部】能「庭上梅」新島裏を讃えて

●「東京新島講座」

【日時】2011年2月12日(土) 13時

【場所】東京神田一ツ橋学士会館

●ジオラマの制作

クラーク記念館が開館した1894年(明治27年)1月頃のキャンパス風景、現重要文化財5棟を中心に復元模型を制作・公開。

●快風丸の模型制作

※詳しくは <http://www.doshisha.ed.jp> をご覧下さい。